

授業で使える当館所蔵地図

No. 8 『日本産業観光パノラマ地図』

作成年：1946（昭和21）年

サイズ：縦約37cm×横約107cm

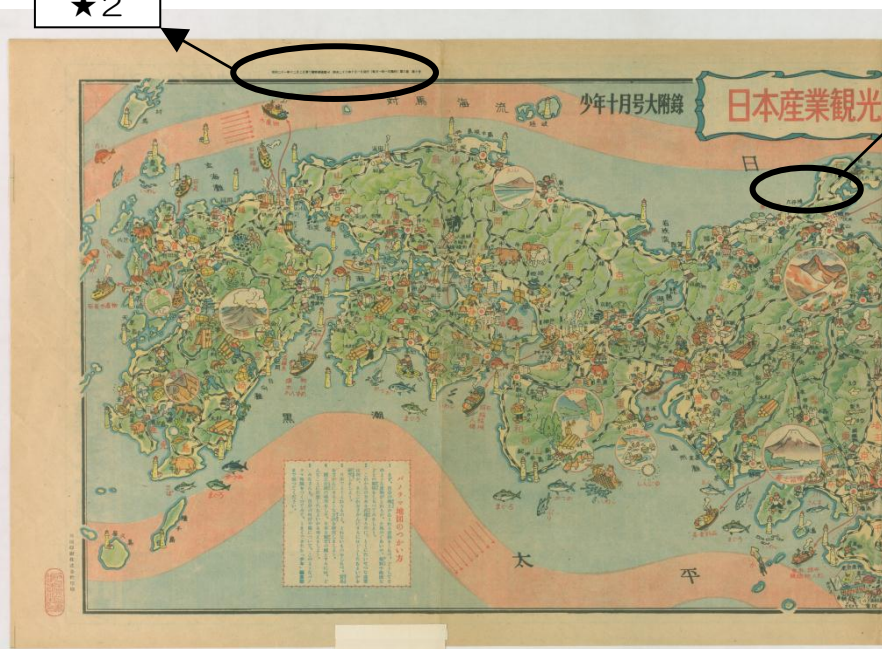
作者：不明

★1



★2

★3



〈「パノラマ地図の使い方」より〉

- 日本の再建のために、必要な産業は何か、その産業が発展するためにどうすべきかを子どもたちに考えさせようとしている。
- 漁業に注目させ、日本の再建と関わらせ考えさせようとしている。
- 日本が強い国となるには、どうすべきかを子どもたちに考えさせようとしている。

【解説】

『少年』は、光文社発行の月刊少年漫画雑誌、1946年（昭和21年）に創刊された雑誌である。本地図は、雑誌『少年』の別冊付録10月号である。敗戦後のものの乏しい時代の子どもたちに対して、人気玩具等を組み立て付録にして提供したのである。「本物」を体験できない当時の子どもたちが、実際は手にすることのできない「本物」に対する憧れや期待を、付録を通して満たしていたと思われる。また、本地図は、産業・観光・貿易の視点から日本国土を捉え、日本を再建するために必要なことを地図上で考えさせようとしている。戦後日本の再建を、まるで日本国内を旅するかのよう、楽しく子どもたちにも考えさせようとする一方、未来の国の担い手として自国の再建のために知恵を練ることの大切さを伝えているようである。

★1【パノラマ図】

鳥瞰図とも呼ぶ。明治時代以降から観光案内図画くパノラマ図で描かれるようになった。特に大正から昭和にかけて吉田初三郎氏によるパノラマ図が知られる。

鉄道、自動車の発達による大衆旅行ブームの広がりにより、観光案内図が盛んになったと言われる。カメラが発達していない時代、観光地の鳥瞰図は旅の記念として土産として人気があった。

★2【昭和21年】

昭和21年（1945年）10月、日本は、戦後間もない日本が、急速に復興へ向かおうと産業を進めた頃である。

★3【日本の鉄道】

日本の鉄道は1872年（明治5年）に新橋駅・横浜間で正式開業した。鉄道は大評判となり、開業翌年には大幅な利益を計上。運賃収入の大半は旅客収入であった。順調にスタートした鉄道であるが、西南戦争後の政府の財政難から急降下。1881年（明治14年）には政府の保護を受けて、半官半民の会社として日本鉄道が設立され、同じように5大鉄道（日本鉄道、北海道炭礦鉄道、関西鉄道、山陰鉄道、九州鉄道）が生まれる。1885年には、日本鉄道が当時の主要輸出商品であった生糸や絹織物の産地と輸出港を結ぶ路線となり、鉄道による産業発展への貢献へとつながった。日清・日露戦争では各地の部隊や物資を運搬する役目を果たすが、1907年、運営面での煩雑な業務が重なり、鉄道が国有化される。

【利用の例】

～地図の読み取り学習として～

○地図から情報を読み取り、情報に関わらせて、課題を作りをする。

→（読み取り）各地での産業、輸送手段（鉄道、船舶）、海流、観光、観光名所）

→（課題作り）「戦後の日本の経済の復興のために、どのような産業に力を入れていたのだろうか。」

～5年「日本の産業」の学習として～

○当時の産業の様子を捉える。

→各地の様子を知り、現代の産業の様子と比べる。（単元で取り上げる県に注目させる。）

岐阜：美濃和紙、和傘…伝統工業

○産業の発展の視点から輸送に着目する。

→各地の産業をつなぐもの…鉄道

戦後の鉄道の様子と現在の様子と比べる。

→日本の産業を拡張させるもの…貿易（港）・船
鉄道以外の輸送手段と輸送されているもの

○各都道府県の特産品などを現在と比べる。

→学習地図と見比べて、現在の各都道府県の特産物と見比べるなど、産業の変化を知る。

～6年「戦後の日本の産業の復興」

の学習として～

○戦後の日本の産業を知り、日本の経済を復興させようとしていたことを捉える。

→現代と当時の産業の様子を比較して、産業の変化の推移を調べ産業の発展を取り上げる。

岐阜：（地図）伝統工業→（現代）

○産業の復興の視点から交通に着目する。

→各地の産業を発展、拡大させるために欠くことのできないものとして鉄道が使われていたことを知る。（★3を参考にして）

→地域間のつながり、他国とのつながりの手段として船舶が利用されていたことを知る。